



2025年2月14日

各位

会社名 株式会社アゴーラ ホスピタリティグループ  
代表者名 代表取締役会長 ウィニー・チュウ・ウィン・クワン  
(コード：9704、東証スタンダード)  
問合せ先 財務経理部 部長 石井 伸幸  
(TEL. 03-3436-1860)

### 連結および個別業績の予想値および前期実績との差異に関するお知らせ

2024年12月期の連結業績および個別業績の予想値および前期実績値との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2024年12月期連結業績予想数値と実績値との差異(2024年1月1日～2024年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	8,100	400	350	150	0.59
今回実績 (B)	8,377	501	248	108	0.43
増減額 (B-A)	277	101	△ 101	△ 41	
増減率 (%)	3.4%	26%	-29%	-28%	

#### 2. 2024年12月期通期個別業績と前期実績値との差異(2024年1月1日～2024年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	43	△ 436	△ 192	△ 63	△ 0.25
当期実績 (B)	341	△ 285	△ 286	△ 580	△ 2.28
増減額 (B-A)	298	151	△ 95	△ 517	
増減率 (%)	682.6%	—	—	—	

### 3. 差異の理由

#### (1) 連結業績

当連結会計年度の売上高は、訪日外客数の増加という外的要因に大きく影響を受けました。2024年は年間を通して訪日外国人客数が回復傾向にあり、12月には単月で248万人に達しました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に落ち着き、水際対策が緩和されたことや円安傾向が続いたことおよび航空便の運航状況が回復してきたことなどが要因です。

当社グループの運営する宿泊施設においても、旺盛なインバウンド需要を要因として売上高が増加しました。その結果、売上高は前連結会計年度を上回る8,377百万円(前期比14.6%増)となりました。内訳は、宿泊事業が7,339百万円(前期比14.3%増)、霊園事業および住宅等不動産開発事業等を行っているその他投資事業が1,037百万円(前期比16.6%増)です。

営業費用については、円安基調が続き、材料費の他、水光熱費、人件費等、全体的に運営コストが増加しましたが、継続的なコスト削減に努めた結果、営業利益は501百万円(前期は営業損失93百万円)となりました。また、営業外収益として持分法による投資利益85百万円、有価証券売却益23百万円等により156百万円を計上し、支払利息105百万円、為替差損37百万円、貸倒引当金繰入額224百万円等による営業外費用410百万円を計上した結果、経常利益は248百万円(前期は経常損失195百万円)となりました。法人税、住民税及び事業税176百万円等を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は108百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失149百万円)となりました。

#### (2) 個別業績

売上高は、宿泊事業の業績回復を受け、匿名組合収入として194百万円計上したことなどにより341百万円となりました。

費用面においては引続きコスト削減に努めたものの、販売費及び一般管理費において当社が保有する債権に対し、貸倒引当金繰入額として96百万円を計上するなどにより、営業損失は285百万円となりました。経常損失は営業外収益として有価証券売却益23百万円を計上した一方、為替差損34百万円を計上したことなどにより、286百万円となりました。また、特別損失として、事業損失引当金繰入292百万円を計上したことにより、当期純損失は580百万円となりました。

以上